粘着バンドによるスギカミキリの防除効果

（要旨）

富山県林業技術センター
西村正史

1．目　的

スギカミキリは、スギ・ヒノキの材質劣化害虫として恐れられている。この害虫の防除法の一つとして、粘着バンドによる成虫の捕獲がある。この方法は多数の成虫を捕獲することができるが、防除効果については必ずしもよい結果を得ていない。このことは、粘着バンドによって捕獲された雌成虫の中には、かなりの産卵を済ませた後に捕獲される成虫がいることを示唆している。この点を明らかにするために、スギカミキリの被害を受けたスギ林において粘着バンドを設置し、調査を行った。

2．内容

1989 年の春に、林試構内のスギ林（林齢：20 年生、胸高直径：17.9cm）に、粘着バンドを巻いた立木と巻かなかった立木を設けて調査した。粘着バンドは、１日おきに取り替えた。その際、成虫が粘着バンドに付着していれば、雌雄を区別して捕獲数を計測した。その後、付着個体を丁寧に取り外し、体重と上翅長を測定し、雌成虫が脱出直後であるか否か、どの程度の産卵を済ませたかを推定した。

調査終了後の５月中旬に、調査林分の全立木を伐採して、新脱出孔数を調査した。

3．結果

・スギ林から脱出した成虫の大半は、粘着バンドによって捕獲された。
・バンドを巻いた立木から脱出した成虫の大半は脱出直後の間もない時点で捕獲され、しかもほとんど産卵していないと判断された。
・バンドを巻いていない立木から脱出した成虫はかなりの産卵を済ませた後に、粘着バンドを巻いた立木に移動して捕獲されたと判断された。
・粘着バンドの効果を期待する場合には、林内の全立木にバンドを巻く必要があると考えられた。